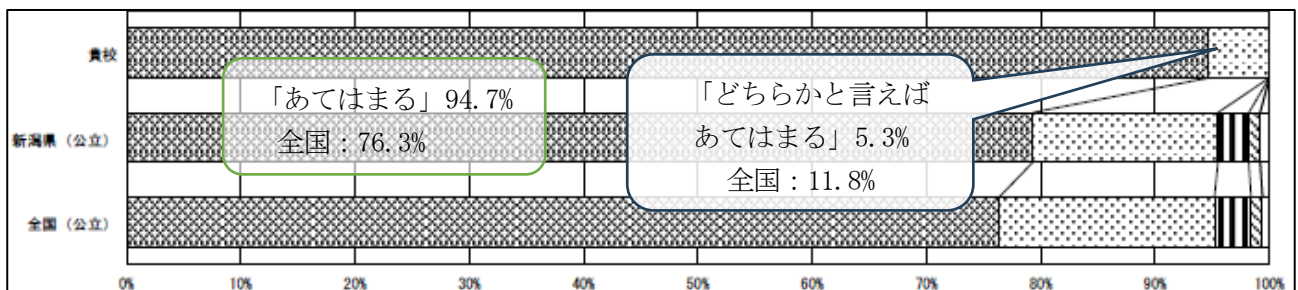


全国学力・学習状況調査の結果より

8月に3年生対象の「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。校長室だより19号では、人との関わりや幸せについて、第20号では、社会性についての結果をお知らせしました。今回は、いじめや学習関係についてお知らせします。

いじめに関して

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問で、肯定的な回答が100%になりました。ここ数年、100%には少しだけ届かない状況でした。目標を達成しました。この結果に甘んずることなく、中条中学校は、「いじめはどんな理由があっても許されるものではない」ことを徹底していきます。



「あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか」という質問の回答です。この質問は「いじめと直接関係ないのでは？」と思うかもしれませんが、私が願っている「心理的安全性の確保」と関わります。肯定的な回答が84.2%でした。



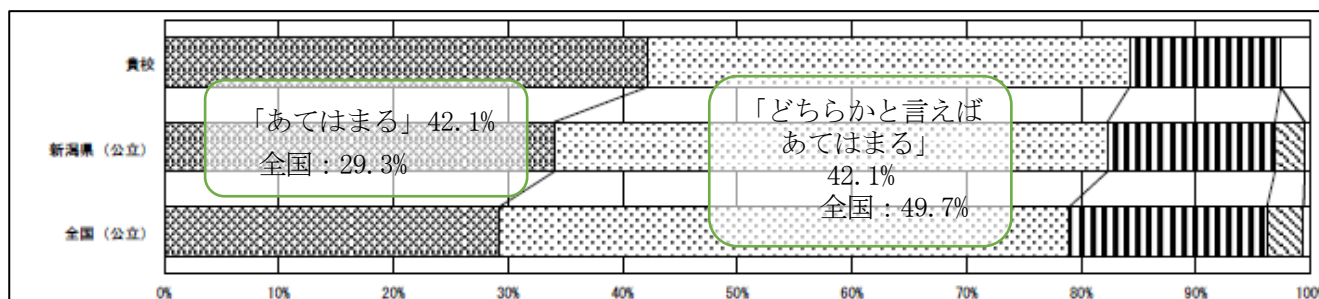
「否定されること」自体がいじめだとは思いません。ただ、いじめが生まれやすい土壌や風土と捉える必要があると思います。学級の中で、「人と違う意見を言うと笑われる」「間違いを指摘されるのではなく人格を否定される」「『そんなことも分からないの?』と言われる」「少数意見を言った子が孤立する」「発言した子を周囲がからかう」という雰囲気があると、子どもたちは次第に「本音を言わない方が安全だ」「目立たない方がいい」「あの子を否定しても許される」と学習してしまいます。



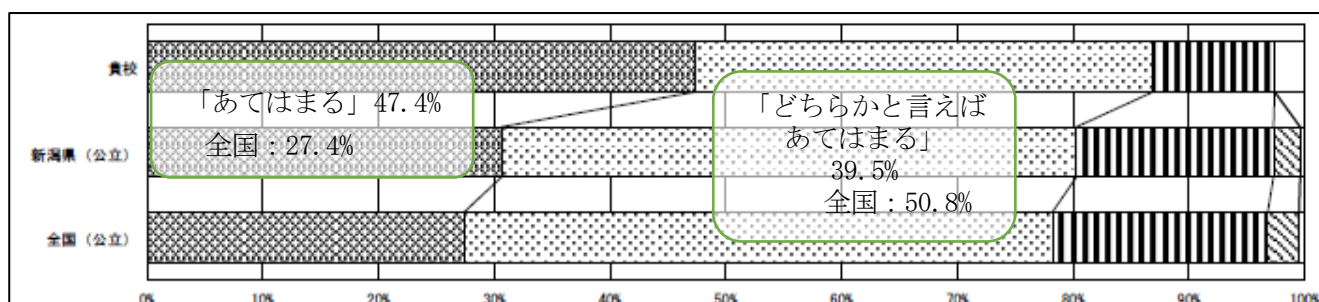
そして、この「否定してもよい」という空気が広がると、特定の子どもへの悪口、仲間外れ、無視などへ発展しやすくなります。①意見を否定する → ②人格を否定する → ③集団で排除するという流れで進行することが少なくないと言われています。心理的安全性が確保されていれば、いじめを助長する可能性が低くなります。いじめだけでなく、学習面でもよい状況になります。3年生の学級が安定していると思います。

学習に関して（振り返り、メタ認知に関する質問）

「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問の回答です。肯定的な回答は84.2%でした。この質問こそ、「メタ認知や振り返り、自己調整の力」に関わる質問です。現行の学習指導要領が求めている力です。自分の学習状況を客観的に見て、何が苦手か、どんな面が分からないのかを明確にして、その点を深めたり調べたりしながら学習を進めることができれば、それこそ、「主体的な取組」であり、大いに力を付けられるはずです。



また、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という質問の回答です。こちらは「知的的好奇心」やこれまでの校長室だよりで紹介した「まず動く」や「内発的動機づけ」に関わるものだと思います。まさに、「主体的に動き、知的的好奇心」を最大限に発揮したら、勉強がどんどん楽しいものになっていくはずです。



3年生は学力のデータでもかなり高い数値を出すことがあります。学習を支える意識の高さがこれらの質問紙調査の結果からも分かります。

以前の校長室だよりで「知的的好奇心」を以下のように説明しています。

「**知的的好奇心**とは、「物事に対して興味や関心を抱き、もっと深く知りたい、深く調べたいという欲求や気持ちです。知的的好奇心は、子どもの学習意欲や創造力を高めるだけでなく、学びのサイクルを作り、ストレスに強くなるなどのメリットがあります。知的的好奇心を育むには、子どもの興味を尊重し、質問や発見をほめる、本やインターネットなどの情報源を提供するなどの方法が有効です。」知的的好奇心を育むには、教師や保護者の働きかけが大切であることが読み取れます。「質問や発見をほめる」ことは、すぐにでもできそうだと思いますか。



最後に学習時間について少しだけ

とはいえ、「全国学力・学習状況調査」の学習時間については、少し寂しい状況です。紙面の関係上全てはお伝えできませんが、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどのくらいの時間、勉強しますか。（塾や家庭教師、インターネットを活用した学習を含む）」で、1時間以上が55.3%（全国61.6%）。同様の質問の休日では、1時間以上が29.1%（全国29.9%）。

「時間の長さだけが全てではない」と言いながらもみんなで考えてみたいところです。

